

みんなで築こう人権の世紀

～考えよう 相手の気持ち 未来へつなげよう 違いを認め合う心～

12月4日～10日は

人権週間

12月10日(日)は「世界人権デー」、4日(月)から10日(日)までが人権週間です。この機会に改めて人権問題について考えてみましょう。

今回は、世界人権問題研究センター嘱託研究員の井岡康時さんから、同和問題について寄稿していただきました。



井岡 康時さん寄稿

同和問題の解決と地域の課題

―部落差別解消推進法の公布を受けて―

「何となく嫌い」解消を

では、このように比較的安定した生活を営んでいたAやBの集落に暮らす人びとは差別を受けることはなかったのでしょうか。いえ、やはり地域の人の心には厳しい差別の目を向けられていました。前述の調査は、周辺の村々の差別意識についても調べていますが、たとえば、Aに対しては、今でも交際を避けている様子があり、それは習慣上何かなしに嫌っているのだと記されています。また、Bに関しては、周辺の人の心には何となく異なる感じが感ずられていると述べられています。県の指示によって調査を担当したのは地元の小学校の先生たちでしたが、部落差別の意識については、その原因について明快に説明することは難しく、「何かなしに」「何となく」というあいまいな言葉を用いて表現するしかなかったようです。

教育や啓発 継続必要

2016(平成28)年12月に「部落差別の解消の推進に関する法律」(部落差別解消推進法)が公布・施行されました。その第1条には、「現在もなお部落差別が存在すること」が明記されています。「国権の最高機関」である国会において、部落差別が今なお解消せずに存在することが確認されたのです。さらに、第3条から第5条には、国や地方自治体には、部落差別の解消に向けて相談体制を充実させ、教育や啓発を進める責務があることなどが記されています。この法律が示すように、部落差別をなくすためには、実態を改めて、相談業務や教育・啓発など、人びとの社会関係を改善し、人権を大切にしようとする文化を生み出し根付かせていくような息の長い取り組みを地域で続ける必要があります。

2017(平成29)年3月策定の「第2次八幡市人権のまちづくり推進計画」をみると、「人権を大切に、互いに支えあい共生できるまちづくり」の実現をめざして、市民一人ひとりが、互いに人権を尊重し、理解しあひながら、誰もが自分らしくいきいきと暮らせるように、支え、支えられる社会の実現を目指します。この内容に賛意を表します。部落差別の解消を実現するためには、こうした各地域における地道な取り組みが欠かせません。部落差別解消推進法は差別の存在を認めた画期的な法律であったと思いますが、これを生活の場に活かしていくことが必要であり、その担い手は私たち自身であることを銘記したいものです。

う被差別部落についても、農業を営んでいて周辺の村々と同じ程度の収入があること、衛生状態も良いことなどが記されていました。他府県と同じように奈良県においても、暮らしに困り生活環境の悪化した被差別部落があることも報告されていますが、このAやBのように、農村部においては、経済的に安定し、教育状態も決して悪くない被差別部落がいくつもみられたのです。

いおか・やすとき

1954年生まれ。奈良県立高等学校教員を経て、奈良県立同和問題関係史料センターで主として近代の部落史を研究。2015年3月退職ののち、同志社大学、京都大学などで非常勤講師、世界人権問題研究センター嘱託研究員をつとめる。

人権擁護委員は、身近な相談相手 ひとりで悩まず、相談してみませんか？

人権擁護委員は、市町村長が推薦し、法務大臣から委嘱された民間ボランティアです。

市では、現在8人の人権擁護委員が、人権相談を受けたり、人権の考えを広める活動を行っています。

相談は無料で、秘密は厳守されますので、困ったことがあれば、ひとりで悩まず、お気軽にご相談ください。(12月の人権相談は、13面に掲載)



例えば、こんな時にご相談ください

- ★子どもが学校でいじめられている。先生にも相談したのだけれど…
- ★ご近所とうまくいかない。いやがらせかな？と思うことが…
- ★相手の暴力から逃げ出したいのだけれど…
- ★「誰のおかげで生活できているんだ」と言われて…
- ★私にも大事な仕事を任せてほしいのだけれど、女だからと言われて…
- ★職場での人間関係に悩み、不安やストレスが…
- ★高齢になった父母の介護に疲れている。私も年なので…

◆問い合わせ 人権啓発課 (☎981-3127)